QScan 2023.0.2
Release Notes

2022 年 12 月

ビジュアル・グラフィックス株式会社

重要なお知らせ 2
新機能 2
新しい CPU 使用率の制御 2
HTML レポート上での目視イベントの追加 2
イベントを CSV としてダウンロード 2
閾値に「スケール」設定を追加 3
PDF レポート生成の有効化/無効化オプション 3
バグフィックスおよび改善点 4
既知の問題 4

お問い合わせ：
ビジュアル・グラフィックス株式会社
テクニカルサポート部
電話： 03-6277-1895 （サポート直通）
E-mail：qscan@vgi.co.jp

Visual Graphics Inc.

重要なお知らせ

- ソフトウェアバージョン毎のライセンス管理の導入により、v2023 へのアップデートには新しいライセンスが必要です。v2021.x を運用されている場合も、v2023 用のライセンスが必要となりますのでご注意ください。既に v2023.0 以降へアップデート済みのお客様はライセンス更新の必要はございません。各バージョンからのアップデート方法は別資料のアップデートガイドをご参照ください。
- PDF レポートの作成手法の変更に伴い、v2023.0 以降は Windows7 では動作しません。

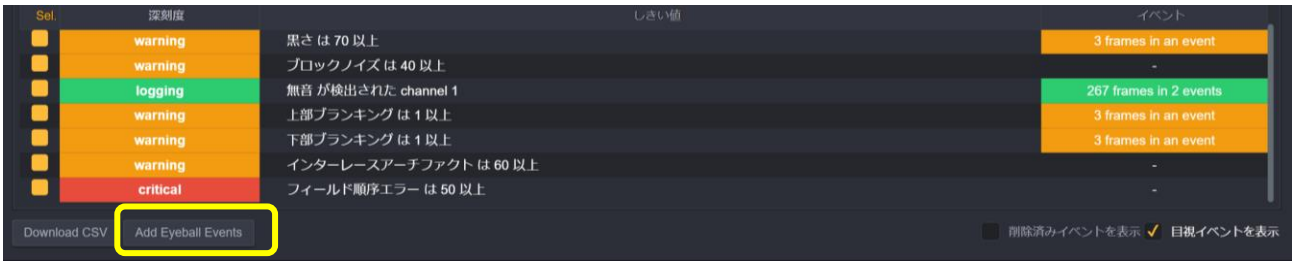
新機能

新しい CPU 使用率の制御

CPU またはメモリの過負荷を回避する新しい CPU 使用率制御メカニズムが実装されました。これは自動の処理です。チャンクベースの分析をユーザーにとってよりシームレスにし、CPU が過度に使用されることによる望ましくないシステムクラッシュの回避を目的としています。

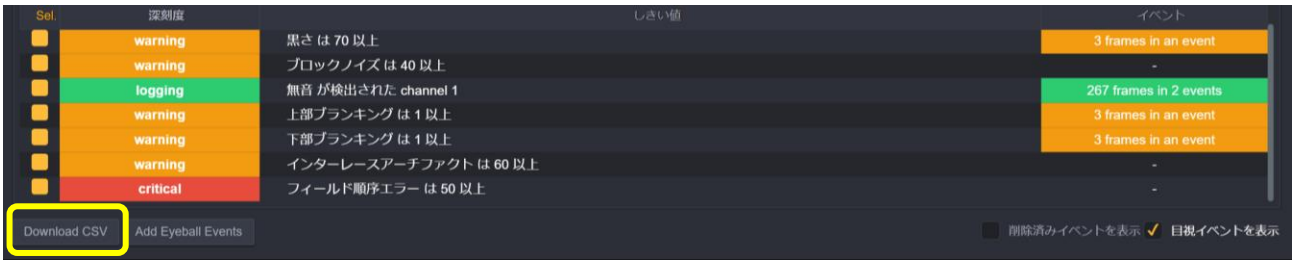
HTML レポート上での目視イベントの追加

目視イベントは v2023.0 で追加された新機能で、ユーザーがカスタムイベントを挿入ですることができます。これまではビデオまたはオーディオの詳細ページからイベントを追加する必要がありましたが、本リリースで HTML レポートからも追加できるようになりました。イベントを一つずつ手動で追加するか、CSV ファイルをアップロードして複数のイベントを一括で追加することが可能です。CSV の記述方式は、過去のリリースノートまたはサポート・エッジをご参照ください。



イベントを CSV としてダウンロード

HTML レポートでイベントを CSV 形式でダウンロードできるようになりました。フィルタで表示中のイベントを含む CSV をダウンロードできます。



閾値に「スケール」設定を追加

プロジェクトおよびテンプレートの閾値にスケール設定が含まれるようになりました。イベントにここで設定されたスケール値が表示されます。

※スケール値が変更されました。旧：FYI, 2, 3, 4, 5 →　新：1, 2, 3, 4, 5

PDF レポート生成の有効化/無効化オプション

プロジェクトレベルまたはシステムレベルで設定が可能で、システムが PDF レポートを生成しないように設定できます。API 経由で QScan を使用する場合に便利な機能です。

- プロジェクトレベルでの設定： レポート設定内

- システムレベルでの設定：

以下の URL を入力
http://localhost:8080/systemconfig/pdfbuilder/[deactivate/activate]

以下の API コールを送信
GET /systemconfig/pdfbuilder/{deactivate|activate}

バグフィックスおよび改善点

- 閾値の区間が秒単位で設定されている場合に誤ったイベントの評価が行われる問題の修正
- レポートの E メールがアプリケーションから送信されない問題の修正
- 部分分析に入力された開始 TC がファイルの開始 TC と同じである場合に無限ループが発生する問題の修正。注: ドロップフレーム TC をもつファイルに対してノンドロップフレーム形式で開始 TC を指定すると無限ループが発生します（ファイルに存在しない TC の指定による）。これは後継のリリースで修正予定です
- リポジトリに新規フォルダーを作成する際に、作成オプションが機能しない問題の修正
- HTML レポートにおけるイベントのフィルタリングの問題を修正
- テンプレートを「結合する」で適用後、ラウドネス分析オフセットの値がデフォルトに戻る問題の修正
- ラウドネス LRA 値が「undefined」と表示される問題の修正
- 閾値の区間設定を使用した場合のイベント TC と尺長表示の修正
- 一部のテンプレートで「MXF セグメント」が誤って有効化されていたものを無効化
- デフォルトのテンプレート「Amazon HD Mezzanines」で閾値の設定を修正。映像フォーマットチェックのスキャンタイプでインターレース設定が重複していたものをプログレッシブ設定へ変更

既知の問題

- 部分分析の開始 TC にファイル内に存在しない TC を入力すると分析がループする
- 音声位相に閾値の区間設定を適用するとイベントが表示されない
- 閾値の区間設定において From tail と Duration の組み合わせを指定できない
- PDF レポートの表示に関する問題（既知のものは以下の通り）
  - イベントの終了サムネイルが正しくない
  - ビデオフォーマットチェック、およびオーディオフォーマットチェックの閾値いくつかが、ヘッダーフォーマットチェックの閾値のセクションに表示される
  - イベント詳細および閾値に表示されない項目が存在する（音声ストリーム数、チャンネル数、平均音声位相、映像の有無、Gamut Check）
- レポート内において、個別の音声イベントに対する尺長（フレーム数）と深刻度に対するイベントの総フレーム数の表示が異なる
- ビデオの詳細ページでデッドピクセルマーカーが表示されない
- 詳細ページのタイムラインでファイルの末尾が表示されない（ワークアラウンド：タイムラインをズーム表示する）
- マクロをプロジェクトで使用する際にオーディオチャンネルの選択を変更できない
- 全てのビデオのパラメータを無効にした状態で、音声の閾値を区間設定とともに使用すると分析結果が「イベント無し」となることがある
- チャンクベース分析で MXF セグメントを有効にしてマルチパートファイルを分析すると不一致が検出されることがある。（チャンクベースを使わない分析は正しい結果を提供する）
- テンプレートの適用で「置換」を使用した場合、分析設定が適切に読み込まれない場合がある。（回避方法：「結合する」を使用し、不要なパラメータを手動で無効に設定する）

- プロジェクト設定でレポート構成を変更した場合、UI から分析済みのレポートを更新できない
- HTML レポートに変更を加えて PDF レポートが自動更新される際に、出力フォルダーにコピーされた PDF レポートが自動更新の対象とならない
- エラーメッセージが長すぎる場合、PDF レポートの IMF セクションの書式が崩れることがある
- 閾値設定時にカスタムのメッセージを入力後、深刻度を変更するとデフォルトのメッセージに戻る
- Offset を使用した部分分析で、ビデオ/オーディオ詳細のタイムラインの開始 TC がファイルの先頭フレームの TC で表示される
- レポートテンプレートの作成・保存において、一度削除されたレポートテンプレートが特定のボタンを押すと再表示されることがある（回避方法：ブラウザでページを更新する）
- プロジェクトの削除後もシステムディスクのフォルダー内にサムネイル等のデータが残る

以前のバージョンの QScan(2021.x 以前)で分析されたファイルを操作する場合、一部の機能が期待どおりに動作しない場合があります。すべての機能が正しく動作するように、ファイルを再分析することをお勧めします。特にタイムコードに関連するもの(TC へのジャンプ、目視イベント、タイムラインの TC 表示など)が影響を受けます。これは、データベースで新しい TC の処理方法が使用されることによるものです。